

## 家族

気づけば、4月から研修生として東京での単身赴任生活が始まって5か月が過ぎようとしている。地方から来た私にとって、環境がまったく異なる東京での生活はとても刺激的で楽しく、充実した日々を送っている。

そんな折、縁あって執筆を依頼された。テーマは何でもよいということだったが、最初に思いついたのは「家族」だった。

これまで、学校現場で教員として、また県教育委員会で指導主事として、目の前の生徒や業務に向き合い全力で走り続けてきたが、東京での単身赴任が始まることで、これまでと違って自分自身について考える時間が増え、その中で家族について考えることが多くなった。

例えば子供について、妻と二人で成長を見守る中で子育ての楽しさも苦しさも体験し、親としての責任感が強まり親自身も成長できたといえる。一方、自分の親については、いつの間にか年老いていく姿を見ることで、40代である自分自身もまた時間の流れに逆らえないことを実感している。

ただ何気なく過ごしてきた家族との関係であるが、家族とは単なる血縁関係や法的なつながりではなく、互いに支え合い、理解し合う存在であることに気づく。家族は自分を無条件に受け入れ、どんな時でもそばにいてくれる存在だ。これは、友人や同僚では代えがたい、特別な関係である。家族と過ごす穏やかな時間は、どんな困難な状況においても心の支えとなる。特に40代という人生の中盤において、家族の存在は、未来に向かうエネルギーの源となっていることに気づく。

また、家族は自分を成長させる存在でもある。子供との接し方や夫婦間のコミュニケーションを通じて、自分の未熟さや至らない点に気づかされることが多い。家族がいるからこそ、自分をより良い人間に変えていこうと努力するモチベーションが生まれる。家族のために、より良い生活を提供し、安心して過ごせる環境を作りたいという思いが、仕事や生活の質を向上させる原動力となっている。

家族はこれまでの人生の集大成とも言える存在であり、これからの人生を共に歩む大切なパートナーでもある。家族との絆を大切にし、その価値を再認識することで、人生はより豊かで意味のあるものになる。家族は自分の鏡であり、自分がどのように生きているかを映し出す存在だ。その絆を大切にし、日々の生活の中で感謝の気持ちを忘れずにいたいと思う今日この頃である。

(S.M)

### 「教育委員会月報 令和6年9月号 No.899」

- ・発行・著作 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課
- ・〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2
- ・TEL: 03-5253-4111 (代表)
- ・URL: <https://www.mext.go.jp>



文部科学省